

京都市伝統産業活性化推進審議会

第2回推進審議会

日時 平成18年3月29日(水) 午後2時30分～4時30分

場所 京都弥生会館 八坂の間

出席者(五十音順, 敬称略)

池坊 美佳	華道家元池坊青年部代表, 京都館館長
岩淵 恵子	京都市小学校長会会計, 京都市立高倉小学校校長
柿野 欽吾	京都産業大学経済学部教授
高井 節子	京都市立芸術大学美術学部専任講師
高木 壽一	財団法人京都高度技術研究所理事長, 京都市国際交流会館館長
谷 裕江	市民委員
中野 美明	京都市産業観光局長
西島 安則	京都市産業技術研究所長
原 左穂子	株式会社高島屋京都店販売第5部教育担当課長
星川 茂一	京都市副市長
南 恵美子	株式会社ホテルプリンセス京都取締役支配人
南出 隆久	京都府立大学人間環境学部教授 京ブランド食品認定・品質保証委員会副委員長
三宅 道子	市民委員
吉澤 健吉	京都新聞社編集局次長
若林 靖永	京都大学大学院経済学研究科教授
若林 卯兵衛	京都伝統工芸協議会会長
渡邊 隆夫	財団法人京都和装産業振興財団理事長, 京都商工会議所副会頭
欠席者	
江里 佐代子	截金作家

1 開会

2 西島会長挨拶

3 「京の手しごと工芸品店」表彰式

4 「業界調査」の結果について

(事務局から概要を説明)

- ・ 72品目(69団体)に対し、去る2月10日から24日まで業界調査を実施。
67品目(64団体)が回答。

<会長>

- ・ 「ブランド力」については、見方がそれぞれある。
- ・ 「業界調査」の結果では、「京都市の取組」で厳しい結果が出ている。本気で取り組まなければ、京都市の姿勢が伝わらない。情報発信もどこまで展開したら発信したことになるのか。相手の心に響いて初めて意味がある。
- ・ 最後の「日本独自の伝統文化の継承と文化の創造」は、京都市産業科学技術振興計画策定委員会でも随分と議論があったが、日本独自の伝統文化をどうするかについては様々な意見がある。委員からの意見を頂戴したい。

<委員>

- ・ 調査は回答結果をどう活かすかが重要である。市民の声を拾うだけで終わることが多いので、調査結果をいかしてもらいたい。
- ・ 「知らない」「わからない」という答えが多いことに驚いた。伝統産業の現場の方々に市の取組が伝わっていない。調査結果を活かすことが一番重要である。

<会長>

- ・ 産業科学技術振興計画策定委員会でも、東京からの情報発信を更に強化し、戦略的な拠点とすること、海外への情報発信の拠点を設けることが重要であるとのことであった。

<委員>

- ・ 首都圏での情報発信については、現在赤坂に東京・京都館がある。これを東京駅八重州口のヤンマー東京ビル1階フロアー350㎡に移転する予定をしている。単に物販に特化するのではなく、各種の機能を京都館に持たせ、大学や観光、伝統産業から先端産業までの情報を首都圏で積極的に発信していく。今年10月1日の開館を目指している。
- ・ 海外発信についてはオーストラリア・韓国・中国(北京)に発信機能をもつ。中国に職員を1人派遣する他、現地の日系企業や旅行エージェントと提携して地元情報を収集するとともに京都の観光情報の発信していきたい。将来的には東京・京都館が持つような機能を海外拠点に持たせたい。成功すれば、ヨーロッパやアメリカについても展開できるだろうと思っている。

5 「京都市伝統産業活性化推進計画骨子案」について

(若林靖永計画検討部会部会長から概要を説明)

6 委員意見交換

< 会長 >

- ・計画検討部会では、今までの取組を整理するだけでなく、次のステップを随分具体的に検討いただいた。

< 委員 >

- ・京都市の18年度の新しい施策について、詳しく説明する。1つは生産履歴のシステムの開発である。製品に番号を打ち、インターネットでその番号を入力すると生産会社、生産者その他の生産にまつわる情報を見ることができることで生産履歴を明らかにしていくシステムの開発をイメージしている。システムを開発し、ソフト化することで、他の業界でも使えるようにしたい。
- ・2点目は東京・京都館と連動する話であるが、「京ものファンクラブ」は講談社と提携が成り、春と秋の季刊（年2回、1冊1500円）で「京もの」に特化した雑誌を発行することになった。企画編集に京都市も参加し、本物の京ものを雑誌に取り上げる予定である。雑誌に掲載されたものは東京・京都館や京都伝統産業ふれあい館に展示し、実物を見ていただくようにしたい。また、京ものファンクラブをこの雑誌で募集する予定であり、会費は千円程度で、当面3年間で1万人のファンを目標としている。会員には優遇を設け、来京時に特典が利用できるようにしたい。業界との話し合いが必要であるが、値引きなども含め、安心して京ものを買ってもらえるシステムを今後つくっていきたいと考えている。40代、50代以上の団塊の世代も含めて購買力のある方々をターゲットにしていきたいと考えている。

< 会長 >

- ・団塊の世代をターゲットにとのことだが、高齢者にも重点を置いてもらいたい。語り部など素晴らしさをもっと発言することが必要である。修学旅行生がふれあい館で体験するような取組が増えればよいと思う。

< 委員 >

- ・各地の中学校の修学旅行で個々の工房と直に交渉し、学習されていることは、結構多い。

< 会長 >

- ・先日、京都市産業技術研究所のオープンセミナーを実施した。時間の制限もあるが、徐々にレベルの高いものを用意していけば、集客があると思う。
- ・明治の初めに京都は博覧会を実に有効に活用し、素晴らしい成果を挙げたと書物に書かれている。今は博覧会の時代ではないが、新しい意味での博覧会を開けたらいいと思う。岡崎のふれあい館ももっと活性化すればと思う。

< 副会長 >

- ・業界調査結果の説明で、京都市の取組の評価の設問で「知らないのわからない」という回答がかなりのパーセンテージを占めているのは問題である。あくまで業界が主役で進めていく振興策であるので、少なくとも新たな京都市の施策は業界には徹底的に周知しなければならない。業界・市民への京都市の施策の周知の徹底を盛り込むべきである。

< 会長 >

- ・業界・オール京都の総合参加は時間が掛かるかもしれないが、やらなければならない。共感を越え、互いに共鳴して、両方が感激するような取り組みにしなければいけない。

< 委員 >

- ・観光客や修学旅行生に次に繋がる機会を提供できればよいと思う。
- ・観光客や修学旅行生が求めている場所やお店、イベントを一般の市民が知っていれば勧めてあげられるような取組が必要だと思う³。それがオール京都ではないか。

< 委員 >

- ・京都市内や四条河原町近辺において呉服や伝統産業製品を扱う店がどこにあり，どんな特徴で，どういうものを販売しているのかという情報がない。
- ・「伝統産業の日」や「花灯路」などの機会に，例えば，呉服関連企業がひとつになって外へ発信する取組ができたればと思っている。
- ・民間企業では，イベントの実施でも，利益や売上が問われる。京都市などのサポートや音頭で，将来的には利益に繋がる，ファンになってもらえるような，大きな視点で参加できるイベントができればありがたい。

< 委員 >

- ・伝統産業は確かに文化事業の発展との相乗効果で成長してきた点があり，千家十職はその最たるものだと思う。宗教織物の法衣等は寺と密接に結びついているが，華道などの文化事業にとって，着物がどの程度必然性をもっているのか知りたい。

< 委員 >

- ・茶道と違い池坊の稽古の時は普段着である。花の枝を切るなど肉体労働に近いものがあり普段着になる。各花展では，オープン時のテープカットやお運びをする女性も振袖で，8割から9割の方が着物姿である。我々も地方出張や花展，海外でのデモンストレーションやパーティーの時は着物を着る。洋服だとどうしても雰囲気合わない。

< 委員 >

- ・日本の華道は，現在は伝統を守り，着物を着ていけているが，今後どんどん洋服になっていくのではないか。
- ・今後も華道にとって着物が必要であるというように，文化事業と着物をマッチングさせる理論的なものが必要であり，そのような理論があればインパクトがある。
- ・どのようにしたら文化事業と着物や伝統産業を上手くマッチングさせることができるか，伝統産業製品が必要で欠くことができないものであると理論立てる必要がある。

< 委員 >

- ・海外でのデモンストレーションでは，着物を着ているだけで喜んでいただけ，着物の力はすごいと思う。一時期は，利便性から洋服を着ていたが，着物姿がおもてなしの心の表現であり，喜ばれるものだと感じて着物を着るようになった。

< 委員 >

- ・今年の市立芸術大学の卒業式でも女性は8割・9割が振袖を着ていた。以前は仮装が多かったが，この頃は女子学生が多いということもあり，振袖か袴姿である。
- ・京都で学んで，卒業する最後の時は自分のアイデンティティーとして着物を着るというイメージを持っている気がする。卒業の制作展でも着物を制作する学生が多い。自分で着てみたい，作ってみたい気持ちがある。そういう意味で京都は伝統産業を背景にしためぐまれた場所であり，若い人にも影響力があると思う。
- ・着物は，持っているが着物を着る機会が少ないという問題があると思う。卒業式などは着やすいが，普段着るにしても，着物の種類や格が分からないという意見を若い人からよく聞く。「伝統産業の日」のように着物を着ようというイベントがあるとよい。
- ・施策に「伝統行事，祭りを大事にするまちづくり」ということが掲げられているが，京都市がバックアップしてイベントとして盛り上げていくことで，着物を着る機会や伝統産業に参加する機会を増やしていくことが必要だと思う。

< 委員 >

- ・私は京ものファン創出事業に大賛成である。まず，京都市民からファンを集め，足元から固めていく方向で進んでいったらうれしい。
- ・私たちは京都の文化の中で生活しているということを，市民一人一人が認識し，147

万人の市民が手を取り合ってまとまっていけばいいと思う。

- ・本をたくさん売るために、口コミやそれぞれの組織の方々への推薦をお願いしたい。本がたくさん売れたら、できればフリーペーパーの形で京都市から出してもらいたい。京都を愛する者のファンクラブができることは、素晴らしい。

< 委員 >

- ・年会費は、現在千円であるが、千円の会費については抵抗がある。会費を1万円にすることで、客層のグレードが上がる。団塊の世代のモノの価値が分かる人に訴えたいし、良いものを見て買って欲しい。伝統産業界としては、仕掛けて欲しいという期待がある。
- ・大勢の人のために会費は千円でよいという意見は正しいと思うが、もうひとつ違う層の会員が居てもよいのではないか。

< 会長 >

- ・京都ブランドが非常に注目を浴びている。高くても、良いものが欲しいという層はいると思う。

< 委員 >

- ・高くても、良いものが欲しいという層もいるが、学生など会費が高くなると抵抗のある層もいると思う。若い人から年配者までオール市民に会費を出してもらうとなると手頃な値段がいいと思う。雑誌も10年ぐらいいは続くような計画でやっていただきたい。すぐ廃刊になるようでは困る。
- ・京都市の伝統産業は72品目あるが、非常に元気のあるグループや中堅、後継者問題も含めしんどい現状のグループが有る。また、産業によっては非常に底辺が広い分野もある。72品目全部をレベルアップをするのは、5~6年の間では大変である。底辺が広い分野をレベルアップするような取組が必要だと思う。

< 委員 >

- ・品物が優れているという宣伝と同時に危機に陥っている伝統産業もあるということを一一般の市民に知らせることが大切だと思う。ほとんどの方は伝統産業がどういう状態になっているかわからない。それを知ることによって京都の文化を守っていこうという気持ちが出てくるのではないか。

< 委員 >

- ・ホテルでも今はインターネットの活用がすごい。旅行会社で申し込んでいたのが、ほとんどがインターネットでの宿泊予約である。そういう時勢であり、インターネットを利用した情報発信が必要だと思う。骨子案でインターネットの活用について書かれているが、もう少し書き込んでどうか。
- ・不景気になると全国の百貨店で京都展をやって欲しいと言われる。それだけ「京もの」に対する憧れというものがある。年間で、京都府や京都市、商工会議所を合わせると100以上の物産展があり、そういうものを定期的にやっていただきたい。6月には京都展があると決まっていると、6月まで待つて買ってくれるという固定的なファンがいる。
- ・市場開拓の範疇かどうかは分からないが、物産展をもっと応援してもらいたい。小規模の伝統産業事業者も出展できるような広範囲な物産展が必要である。デパートでの物産展の場合は、着物や工芸品・食品などが中心になるが、ファンは全国に結構いると思うので、府や市、商工会議所で応援はしているが、もっと積極的にやってもいいのではないか。
- ・全国、世界の方々には伝統産業について大きな関心がある。デジタルアーカイブなど技術の活用を進めるべきである。骨子にも記載されているが、観光に産業がどのようにドッキングし、コラボレーションできるのかが重要である。
- ・ホテルでは、伝統産業の紹介や、売店での伝統産業製品の販売をしている。あまり場所

がないので多くの種類は並べられないが、もっと多くのものを紹介できればと思っている。東京・京都館が立地の良い場所にできるという話を聞き、大変期待している。

< 会長 >

- ・京都へ行ったら、ホテルの方に良いところを紹介してもらったので、今度は友達に紹介しようなど、そういう広がりがあればよい。

< 委員 >

- ・ホテルから歩いても近いので、特に四条京町家のパンフレットは渡すようにしている。四条界隈は色々見て歩けることを一生懸命アピールしている。

< 委員 >

- ・生産履歴の話で、理解してもらいたいのは、仏壇の場合、白木から始まり、最後までに10工程くらいある。既に京仏壇・京仏具の業界では、生産履歴に取り組んでいるが、自社で製造せずに、すべて外注に出して戻ってきた製品を寺や顧客に届ける企業にとっては、生産履歴があると困る。
- ・生産履歴を進めるのは理解できるが、反面やり過ぎると商売の邪魔をするような場合もあるので、組合としてはどこまで取組んでいくかが大きな課題である。
- ・工芸土産品という組合の審査会では、中国製の3千円から5千円ぐらいの商品を審査した。工芸品でありその企業のアイデアやデザインでつくらせているのは事実だが、物は中国製である。
- ・百貨店の物産展の売れ筋商品の中で純粹の京都製がどれだけあるかは、疑問である。純粹に京都の伝統産業を守るのであれば、値段は高いが値打ちがわかる方をいかに開拓するかを考えないといけない。京都で2~3千円の土産を買って、それがすべて京都ものと思われたら非常に迷惑である。4月1日から地域商標が認められることからその辺は整理が付くと思う。
- ・35年前に京都の伝統産業が全部集まった催しを実施した。またやりたいという意欲はある。全業界が意欲を出してやらなければ、アピールはできない。
- ・ホテルで伝統産業に関しての語り部を実施するなど、アピールできる場を設けてもらいたい。

< 委員 >

- ・6年生が卒業する前日に5年生が生け花をした。それは卒業生へのはなむけのお祝いのお花であるが、5年生が修得してきた自分の生け花を披露する場でもある。本物に触れる・学ぶという体験が子どもの時にできることは非常に重要だと思う。
- ・子どもたちには体験も大切であるが、講師の方が伝統産業に誠心誠意取り組んでいる生き様に触れて感動しているのではないかという気がする。仏師の方が修学旅行生の前で実演されたという話があったが、寺社仏閣の見学だけでなく、修学旅行生が関係者から学ぶという視点があればよいのではないか。
- ・高倉小学校区は産業と伝統文化の町である。「歩いて暮らせるまちづくり推進委員会」という団体の主催で、11月に「まちなかを歩く日」という地域の京町家などを見て歩くイベントがあったが、できれば、子どもがそういうイベントに参加できることも考えていきたい。
- ・ジュニア版京都検定は、今年から4年生以上の子ども全てがこの本を持ち、5~6年生は検定にチャレンジするものである。学校教育では机の上の学習も大事であるが、本物に出会えるような場をもっともたないといけないと感じている。

< 会長 >

- ・京都は恵まれ過ぎている。伝統産業がすぐに50種類も70種類もあげられるところは他にない。伝統産業を全体として見るよりも、特に子どもたちの印象に残り、それが好

きだという気持ちを1つでも2つでも持ってくれたらいいと思う。そうすることで、だんだん目が肥えてくる。

< 委員 >

- ・着物を着たら周囲から浮くということがある。着物を着るといのは、ある種理屈が必要である。小学校の先生が着物を着て授業するということができないか。広沢小学校では草履を履いて学校に行っている。

< 委員 >

- ・私は、正月やお盆は着物を着ていたが、今の子どもは1年間の中で着物を着る機会があるのかを考えていた。
- ・この間、文部科学大臣の来京の際に、京都市からいただいた着物を着て、10人ほどの子ども達が花をいけた。その時の着物が10着ほどあるので、子供たちに、何時着せてやれるかを考えている。

< 副会長 >

- ・計画検討部会で若林部会長中心に練りに練って作っていただいている。基本的にこういう内容で、十分市民の目にも耐えられるものだと思う。パブリックコメントで様々な意見が出てくればまたそれに沿って議論していけたらと思う。

< 会長 >

- ・皆さんの意見を骨子に反映し、次回の6月7日の審議会では中間報告案に関する協議を予定しているので、よろしく願います。

7 閉会